

令和7年度鹿屋市まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者委員会 会議記録

日時	令和7年8月21日(木) 13時30分から15時00分
場所	市役所7階 大会議室
出席者	<p>【有識者委員(18人)】</p> <p>新屋 浩一 (鹿屋商工会議所 会頭)</p> <p>別府込 初男 (かのや市商工会 副会長) 【代理出席】</p> <p>中野 正治 (鹿児島きもつき農業協同組合 代表理事組合長)</p> <p>皆倉 貢 (鹿屋市漁業協同組合 代表理事組合長)</p> <p>落司 ひとみ (鹿児島県建築士会鹿屋肝属支部 顧問)</p> <p>坂脇 健一 (大隅地域振興局 局長)</p> <p>金久 博昭 (国立大学法人鹿屋体育大学 学長)</p> <p>田淵 竜征 (大隅地区公立高等学校長会) 【代理出席】</p> <p>今村 和也 (鹿屋市PTA連絡協議会 会長)</p> <p>横山 尚隆 (日本政策金融公庫鹿屋支店 副事業総轄) 【代理出席】</p> <p>吉松 勇作 (鹿児島銀行鹿屋支店 営業次長) 【代理出席】</p> <p>桑畑 千恵子 (鹿屋公共職業安定所 次長) 【代理出席】</p> <p>丸野 里美 (NPO法人ローズリングかのや 事務局長)</p> <p>堂原 美代子 (鹿屋市保育士会 主任主幹会 会長)</p> <p>宮下 昭廣 (鹿屋市社会福祉協議会 会長)</p> <p>隈崎 和代 (おおすみハナマルシェ実行委員会 実行委員長)</p> <p>上假屋 愛 (一般社団法人鹿屋青年会議所)</p> <p>小林 千鶴 (小林公認会計士事務所 代表)</p> <p>【欠席(2人)】</p> <p>崎野 剛 (国立大学法人鹿児島大学 准教授)</p> <p>志賀 玲子 (学校法人志學館学園志學館大学 教授)</p>

■主な質疑等

発言者	内容
委員 事務局	<p>【第2期鹿屋市まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組成果について】</p> <p>○ 若年人口が減るのは、高校から大学に入学するタイミングなのか。 ⇒ 高校卒業後に県外へ出ていく方が多く、大学卒業のタイミングで若干の戻りはあるが、戻りが以前より弱くなっているようである。</p>
委員 事務局	<p>○ 私の周りでは、小学校や中学校を卒業するタイミングで保護者も一緒に市外へ出ていく傾向が強くなっているように感じる。 ⇒ 人口減少による小・中学校への影響は少なからずある。高校の魅力をどう高めるかが、重要になってくる。県立高校も様々な取組をしており、本市も女子高の魅力を高めるための取組を行っている。地元の</p>

	<p>方々には地元の高校に進学していただきたいと考えている。</p>
委員	○ 昨年、おいもフェスカのやに取組んでもらった。
事務局	<p>非常に良い取組であるため、今後も継続してもらいたい。</p> <p>⇒ からいもに特化したイベントはあまりない。昨年はとても賑わった。今年市制 20 周年の記念式典の日に、おいもフェスを開催する予定であるので協力をお願いしたい。</p>
委員	○ 昨年のおいもフェスカのやで良かったのは、出店する店舗の商品をお芋に限定したことで、商品の製作意欲が生まれたように感じる。
事務局	<p>鹿屋市が面白いことをしている情報が拡散され、市外からも参加者が来られていたようである。おいもフェスがもっと広まり、鹿屋といたら「おいものまち」と思っていたら良い。</p> <p>⇒ 今年も商店街の方々に協力をいただき 1 ヶ月間、開催する予定である。今年も、からいもに特化した商品を作ってもらおうよう働きかけている。大盛況であったが反省点もいくつかいただいている。昨年度のフェスで、生産者も参画する仕組みが必要という意見があったため、今年、若い生産者を中心に生産農家も参画できる企画とする予定である。</p>
委員	○ 農地集積の達成度が低いようであるが、昨年度、地域計画を作成しているため、今年度以降は達成状況が改善すると考えて良いか。
事務局	<p>⇒ 昨年度、全市町村が農地 1 筆 1 筆について耕作者や所有者に意向を確認し、10 年後に農地がどういう状態になっているかを色付けした地域計画を農業委員会と連携して作成した。</p> <p>今後、担い手が減るなかで農地の集積・集約が重要になってくる。農業委員会や関係機関と連携し、農地を中核的な担い手に集積していきたい。</p>
委員	○ 創業支援事業による創業者について、女性をメインターゲットに起業希望者の掘り起こしを図るとあるが、令和 6 年度の実績 42 件のうち女性の創業は何件か。
事務局	<p>⇒ 女性の起業支援については、コワーキングスペースを活用してさまざまなイベントを実施しており、かのや女子起業ラボには女性が 10 名参加しており、よろず支援拠点を実施した大隅女子会には 33 名、女性応援セミナーには 69 名の参加をいただいている。女性の創業件数は 21 件である。</p>
委員	○ 地方創生テレワーク推進事業のコワーキングスペース利用者の定義は、イベントに出席された方か。

事務局	⇒ コワーキングスペース利用者は明確に定義していない。都市圏のフリーランスの方々が仕事や交流を図れる施設としており、令和6年度の利用登録者数は1,037人となっており、学生も含め多くの方々に利用いただいている。
委員	○ 1つの事業に2つの成果指標が設定されている場合は、1つでも成果指標が達成されれば評価は○になるのか。
事務局	⇒ 評価は事業ではなく、成果指標の達成度を評価している。
委員	○ ばらを生かしたまちづくり推進事業について、実績が厳しい数字になっているが私達も様々な努力をしている。資料に地域おこし協力隊と連携したSNS発信の強化とある。ローズリングかのやでも誘客促進の取組を行っているが、地域おこし協力隊と一緒に動いていない。ばら園への誘客促進について地域おこし協力隊と連携して取り組みたい。
事務局	⇒ 地域おこし協力隊については、地域活力推進課が所管しているが、私達がローズリングかのやと地域おこし協力隊との仲介を働きかけていきたい。
委員	○ グローカル教育推進事業について、英検3級相当の英語力のある生徒が39.8%とあるが、中学3年生全員が英検3級を受けているのか。
事務局	⇒ 全員が英検3級を受けているわけではなく、学力テストなどの成績をもとに、3級程度の実力がある生徒を学校が判断している。
委員	○ 街のにぎわいづくり推進事業の市街地イベントの内訳はどのようになっているか。
事務局	⇒ リナシティ周辺のイベントをカウントしており、かのや Meets や冬華火、リナフェスタ、北田わかだいしょう焼酎まつり、食と暮らしのマルクトなどの参加人数を集計している。
委員	○ 高齢者の運動サロンの実施主体はどこか。また、指導者はどこが選定しているのか。市は、サロン運営に当たり補助金を出しているか。
事務局	⇒ サロンは町内会や高齢者クラブ単位で開催されており、指導者は市が体育大学の方等を選定し派遣している。市はサロン運営の補助金を出していないが、指導者の謝金は負担している。
【第3期鹿屋市まち・ひと・しごと創生総合戦略について】	

<p>委員</p>	<p>○ 教育DXは、教育現場を対象にしているのか、それとも児童・生徒一人ひとりの教育の個別最適化を目指しているのか。人口が減少する中においては、児童・生徒一人ひとりの学びのレベルに合わせた個別最適化が重要になってくる。</p>
<p>事務局</p>	<p>⇒ 教育DXについては、タブレットを全ての児童・生徒に配布し授業や自宅学習で活用している。また、教職員の事務の効率化を通じた働き方改革にも取り組んでいる。</p>
<p>委員</p>	<p>○ 教育DXは今後、スピードアップしていくと思う。本市の教育環境を理由に市外に出ていく親子もいるので、本市で学べる体制を整える必要がある。不登校児童も、おいていかれないような仕組みを作る必要があるのではないかと感じている。学校の先生や子ども達と話をする機会があるが、小学校ではタブレットを御褒美で使っているところがあると聞く。児童がタブレットをしっかりと使えるように取り組んでいただきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>⇒ 遠隔授業の話もあったが、不登校の生徒は自宅にしながら授業をリモートで受ける取組もしている。授業の中でタブレットを活用し、先生と生徒が双方向でやり取りをできるような取組もしている。ご指摘をいただいた点を踏まえ、改善していきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>○ 私は鹿屋女子高の学校のDX委員をしているが、女子高はDXが県内の他の学校より進んでいるように思える。大隅半島唯一の市立の高校ということでDXを更に進めてもらいたい。</p>